

# いつも一緒 富山のペットたち

ペットを飼う方が気になる症状として、食欲不振、嘔吐、外傷などがあります。下痢もその一つではないでしょうか。単純に下痢といっても原因はさまざまです。今回は、特に猫の下痢についてお話しします。



後坊立 後坊

後坊動物病院院長  
(砺波市平和町)

## 猫の下痢

まずは寄生虫の感染が挙げられます。よく耳にする回虫の他に、鉤虫、条虫、イソスポラ(トキシソウム)、ジアルシアなどがあり、猫の世界ではまだまだ多くの腸内寄生虫を見掛けます。

寄生するご下痢や栄養不良、貧血などが起こり、子猫の場合重症化することがあります。回虫は、感染した母猫から母乳を通して体内に入ることもあるので、子猫を飼ったらず動物病院での糞便検査をお勧めします。

次は細菌感染についてです。一部の菌には腸炎を起こす作用があります。これらに汚染され



下痢が続き、栄養状態の悪い猫

# 寄生虫や膀胱炎が原因

た物を食べたり飲んだりすることで、嘔吐、下痢、発熱が起きます。今の時期は食べ物が傷むのも速いため、缶詰や食べ残しのご飯などのウェットフードはもろもろ、ドライフードにも気を付けましょう。

**ワクチンで予防**

また、猫にも多くの種類のウイルス感染があり、元気がなくなったり、発熱や下痢、嘔吐を引き起こしたりするものも少なくありません。中でも激しい症状を示すのが、猫パルボウイルス感染症です。この病気は猫汎白血球減少症ともいわれます。血液検査で白血球の極端な減少が見られるのが特徴で、致死率がとても高い危険な病気です。しかし、この病気にはワクチンがあります。動物病院で接種して、しっかり予防しましょう。



回虫は、母猫から母乳を通して感染することもある。

続いて膀胱炎です。消化酵素を十二指腸に分泌する働きを担う膵臓が、何らかの原因で、膵臓

場合があります。老猫ほど増える傾向にあり、下痢ばかりでなく、食欲不振や元気がなくなると、嘔吐などの状態にも注意しましょう。治療は発生源や進行の度合いにより異なります。かかりつけ医としっかり相談してください。

これ以外にも下痢の原因となるものはたくさんあります。いつもと違う便が出たら、早めに動物病院で診察してもらいましょう。出た便を見せたら、診断に役立つことがあるので、持参されることをお勧めします。

自体を消化して炎症を起こす病気です。犬に比べ、猫の膀胱炎は無症状のまま進行することが多く、見つけにくい病気のひとつです。膀胱炎は急性、慢性の症状に応じた治療を行います。重症化すると危険な状態になることがあります。

### 餌に過敏反応

アレルギーも下痢の原因となります。いつも買っているキャットフードがたまたま売り切れだったので導引製品にしたら、直後に下痢をしたことはありませんか。同じように見えるフードでも、含まれる成分の違いから過敏反応を起こすことがあるので、餌を食べている時の状態の急変には気を付けましょう。消化器系の悪性腫瘍(がん)でも、嘔吐、下痢、血便を起こ

2014(平成26)年9月4日  
北日本新聞